ケース３　「坊ちゃん列車」復元物語

キーワード：地域活性化　企業の社会的責任　経営理念

１　学習内容

地域の期待に応え、地域活性化を目指す企業の取組

２　学習目標

地域の期待に応え、地域活性化を目指す企業の事例の考察を通して、社会の公器である企業が、社会的責任を果たす意義について理解する。

３　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「ビジネス基礎」

⑸　企業活動の基礎

ア　企業の形態と経営組織

企業の形態と経営組織の種類と特徴について理解させる。また、起業家精神、ビジネスの創造及び経営理念の重要性についても理解させる。

「課題研究」

⑴　調査、研究、実験

商業科に関する科目の内容に関連した調査、研究、実験の取組が考えられる。ビジネス経済分野については、産業構造の変化や経済の国際化、観光や地域産業の振興に関する内容を主とした調査や研究などの例が考えられる。

「商品開発」

⑴　商品と商品開発

イ　商品開発の意義と手順

商品開発の意義及び商品のライフサイクルについて理解させる。また、商品開発の手順と考え方について、商品開発の具体的な事例を取り上げて理解させる。さらに、商品開発や商品の流通における法令遵守などの社会的責任及び販売後の商品の評価とそれに基づいて商品の改良を行うことの重要性について理解させる。

４　評価の観点

・地域に根差した企業の地域活性化に寄与する取組について理解している。　【知識・理解】
・起業家精神、ビジネスの創造及び経営理念の重要性について理解している。【知識・理解】

事例　ケース３　「坊ちゃん列車」復元物語

「坊っちゃん列車」の復元について

伊予鉄道株式会社、私たち松山市民は親しみを込めて「いよてつ」と呼ぶ。「いよてつ」は、ひとたび愛媛県に住めば利用したことのない人を探すほうが難しい、市民の生活に密着した愛媛県を代表する企業の一つである。この「いよてつ」が、2001年、時空を超えて蘇らせたのがこの「坊っちゃん列車」である。

先代「坊っちゃん列車」の活躍

先代「坊っちゃん列車」は、「いよてつ」開業から間もない明治21年から昭和29年までの67年間にわたり活躍した蒸気機関車である。当時は、黒煙をもくもくと出しながら地域と地域を結び、松山市民の足として活躍した。「停車場はすぐ知れた。切符も訳なく買えた。乗り込んで見るとマッチ箱の様な汽車だ」これは夏目漱石の小説『坊っちゃん』の一節であるが、漱石が乗ったその蒸気機関車は、それ以来「坊っちゃん列車」と呼ばれ人々に親しまれてきた。それからしばらくの間、「坊っちゃん列車」は、地域の経済・産業・文化の向上に貢献したが、列車の電化に伴い惜しまれつつ路線から姿を消していった。

地域活性化の起爆剤に

先代「坊っちゃん列車」が姿を消してから48年。「「坊っちゃん列車」の復元運行を地域活性化の起爆剤に！」また、「松山の新たな観光資源の目玉にしてはどうか！」という声が高まり、各界・各層の方々からの熱意に押し出されるかたちで、「いよてつ」に社内プロジェクトチームを結成し、復元運行へ向けた様々な課題の検討と克服を重ね、2001年の復元運行に至った。

「坊っちゃん列車」復元には、様々な課題が山積していた。最初の課題は、「坊っちゃん列車」の設計図が戦火によって焼失してしまっていたことである。復元しようにも設計図がなければ、正確に復元することができない。そこで、梅津寺公園に展示してある「１号機関車」を実測し、一から図面を作製した。

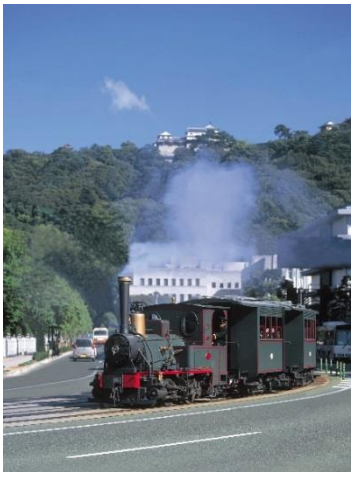
二つ目の課題は、起終点（松山市駅・道後温泉駅・古町駅）での機関車先頭部分の方向転換の方法をどうするか、ということである。「坊っちゃん列車」は現在の箱型の車両のように前後に運転席があるわけではないため、起終点では、方向転換をする必要がある。そこで、「坊っちゃん列車」の床下の動輪の間に転車台を搭載し、油圧で機関車を持ち上げ、人力で回転させて方向転換するという方法を採用することとした。

その他にも、「できるだけ当時のままに」復元するため、汽笛音は「いよてつ」のＯＢの協力のもと、当時の記憶を頼りに何度も何度もテストを繰り返し、当時の音を再現することに成功した。また、客車内は木製とし、室内灯はカンテラ式のデザインを活かして製作した。なお、「できるだけ当時のままに」復元することを目指していたため、エアコンは設置していない。「当時のまま」を感じてもらうことで、明治時代にタイムスリップしたような演出となった。

「坊っちゃん列車」が地域社会に及ぼした影響

「坊っちゃん列車」の復元については走行場所をはじめ技術的にも数多くの問題があり困難とされてきた。しかし、地元からの熱い声を受け、また地域活性化の起爆剤として、多くの難題をクリアし実現した。先代の「坊っちゃん列車」は、石炭を燃料に蒸気の力で動いていたが、現在はディーゼルエンジンを採用している。環境に配慮した面も新生「坊っちゃん列車」の特徴と言える。

復元運行を心待ちにしていた地元松山市民は、「坊っちゃん列車」に親しみを感じるとともに、郷土の誇りとして大切に思っている。「坊っちゃん列車」の汽笛音に振り返り、足を止めて写真を撮る市民の姿をたびたび目にする。車掌はいつも笑顔で手を振り、小さな子どもは羨望の眼差しで見つめている。また、観光客に対しては、「坊っちゃん列車」内で車掌が観光案内を行い、県外からの観光客のみならず、外国からの観光客にも松山市の新たな観光資源として好評を博している。



2011 年 10 月には、復元運行開始から 10 周年を迎えたことを記念し、道後温泉駅前において記念式典を実施した。また、県内外のテレビ・雑誌などによる旅企画・鉄道企画などにも数多く取り上げられている。利用者数は年間約 10 万人を数え、「地域活性化の起爆剤に」との願いから復元された「坊っちゃん列車」であるが、その役目を十分に果たしてあまりある活躍を見せ続けている。

復元運行を果たした「いよてつ」は、今後、松山城・道後温泉と並ぶ松山の観光資源のひとつとして、絶やすことなく運行を維持していくことが最大の使命と考えている。

（取材協力）　伊予鉄道株式会社

2016/2/1 資料作成

ワークシート

ケース３　「坊っちゃん列車」復元物語

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「坊っちゃん列車」を復元運行させようと動き出す原点となった思いとは何か。

【知識・理解】

2　「坊っちゃん列車」が復元運行されるまでの課題にはどのようなものがあり、どのように解決していったか。

【知識・理解】

3　「坊っちゃん列車」の復元運行が地域社会に及ぼした影響について考察しなさい。

【思考・判断・表現】

4　「いよてつ」の経営理念について「いよてつ」のホームページなどを参考に、各自の考えを述べなさい。

【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース３　「坊っちゃん列車」復元物語

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「坊っちゃん列車」を復元運行させようと動き出す原点となった思いとは何か。

【知識・理解】

「坊っちゃん列車」の復元運行を地域活性化の起爆剤にしたい。松山の新たな観光資源の目玉にしたい。という地元の各界・各層の方々からの熱意。

2　「坊っちゃん列車」が復元運行されるまでの課題にはどのようなものがあり、どのように解決していったか。

【知識・理解】

①　設計図の焼失。

→　梅津寺公園に展示してある「１号機関車」を実測し、一から図面を作製。

②　起終点での機関車先頭部分の方向転換の方法。

→　床下の動輪の間に転車台を搭載し、油圧で機関車を持ち上げ、人力で回転させて方向転換する方法を採用。

3　「坊っちゃん列車」の復元運行が社会に及ぼした影響について考察しなさい。

【思考・判断・表現】

①　地元松山市民には、親しみと誇りを提供。

②　県外からの観光客や、外国からの観光客に松山市の新たな観光資源として好評を博しているとともに、県内外のテレビ・雑誌などによる旅企画・鉄道企画などにも数多く取り上げられ、利用者数は年間約 10 万人を数えている。

4　「いよてつ」の経営理念について「いよてつ」のホームページなどを参考に、各自の考えを述べなさい。

【思考・判断・表現】

①　経営理念「安全で良質な商品・サービスを提供し、地域とともに歩み、ともに発展します」のポスターを作成し、つねに見える位置に掲示。

②　ＣＳＲ推進キーワードは、「ひと」「まち」「エコ」。

・「ひと」に信頼され、「ひと」に満足を提供する。

・交通という側面から、「まち」に寄与する。

・未来を変える「エコ」を推進する。

③　コンプライアンスマニュアルを携帯。

※　これらに各自の考えを加えて解答する。